

## 4-1-3 女性総合外来

### 1. 概要、特色

当センターの診療の大きな柱である母性医療の一環として、女性が抱える“こころ”と“からだ”の悩みを気軽に相談できる『女性総合外来』を2003年7月に開設した。婦人科、不妊診療科、こころの診療部、(母性)内科の医師5人に、2005年度からはこころの診療部の医師が1人加わり、6人の医師が女性外来を担当している。近年、“女性外来”が注目され全国に次から次へと開設されているが、当院の女性総合外来の特徴として時間をかけて問診・カウンセリングのみ行うこと、男性医師も担当していること、予約は専属看護師が担当し簡単な問診をして振り分け業務を行っていることがあげられる。11階の華やかな空間で一人あたりの診療に50分をかけた大変贅沢な診療をおこなっている。受診者に診療後記入してもらった満足度調査の結果から、利用者のニーズにあった医療の提供が行われていると考えている。

### 2. 診療活動

#### 2.1 診療の実際

今年度から内科医がひとり加わった形となった。診療は火曜日の午後を内科医師ふたりが担当、木曜日の午後を婦人科医が担当、金曜日の午前は不妊診療科医師とこころの診療部医師が担当している。また、一部は不妊診療科医師とこころの診療部の医師が合同で担当している。受診理由がセカンドオピニオンの場合は当外来で完結するが、そうでない場合は院内外の適切な科・医師を紹介している。すなわち、当外来は主にセカンドオピニオンとしての役割と、母性医療の窓口としての役割を果たしていることになる。当外来を受診した後はそれぞれの診療科の通常外来に振り分けられている。当院にない診療科についてはふさわしい医療機関を紹介している。

#### 2.2 患者数

患者数は別紙のごとくである。当外来はカウンセリングのみという特徴を持つ。そのため診察が必要な症例は専門看護師が電話受付の段階で通常の外来を薦めている。今年度は97名が通常の外来へ紹介された。また、電話をかけてきたが、診療形態の問題・費用を理由に受診とらなかったケースは182名であった。このように、電話の段階で振り分けがされているので、実際の外来診療が円滑に運営できており、当外来における専門看護師の果たす役割は大きい。

オープン当初に比べ、ホームページで検索してアクセスするケースや、当院に通院している子どもの母親がパンフレットなどで当外来を知り受診するケース、ロコミで受診するケースが目立ってきている。また、当初はさまざまな年代のさまざまな主訴の受診者が多かったが、最近では当院の特性に合った生殖年齢の女性の割合が増えてきている。

下記は月、担当医師の科ごとに分けた患者数を表したものである。2004年度に比べ1割増しとなっている。こころの診療部は再診患者数を含んでいる。

月別・担当者別患者数						
	婦人科	内科	不妊科	こころ	不妊+ こころ	合計
2005年4月	4	6	9	8	0	27
2005年5月	9	9	10	7	0	35
2005年6月	8	3	11	10	0	32
2005年7月	4	1	9	7	0	21
2005年8月	9	3	8	7	1	28
2005年9月	8	6	12	7	0	33
2005年10月	10	4	9	5	0	28
2005年11月	4	3	6	7	0	20
2005年12月	7	1	9	6	1	24
2006年1月	5	2	10	9	0	26
2006年2月	10	4	3	5	0	22
2006年3月	14	6	6	10	0	36
合計	92	48	102	88	2	332

### 3. 研究活動

女性医療の基盤整備に関する研究として他施設の女性外来担当者とともに女性医療、女性外来はいかにあるべきか、そのためにはどのような基盤を整備したらよいのかという点について研究を行っている。2005年度は最終年であり、リプロダクションエイジを対象とした女性外来のあり方について各科の立場からまとめた。

福島県性差医療セミナー「リプロダクションエイジを対象とした女性医療」 福島県  
 女性外来診療指針ハンドブック刊行記念シンポジウム「女性外来の現状と展望」 東京都  
 東京都女性薬剤師会 春期講座「年代別に見る女性医療」 東京都